

こんにちは! 事務長の工藤大輔です。

今回は、箱館戦争にまつわる面白いエピソードをひとつご紹介しましょう。

箱館戦争は、箱館の五稜郭を奪った旧幕府軍と、明治新政府軍との間で起きた戦争で、当時の青森町は北海道への渡航地として、この戦争のいわば前線基地となっていました。そして、青森町にとっての箱館戦争は、細かい説明は省きますが、明治元年(1868)10月25日から翌明治2年10月25日までの丸1年の期間に及びました。

さて、明治2年4月8日、箱館からイギリスの商船が青森湊にやってきました。戦火を逃れて青森町へやってきたのです。乗員は船員のほかに外国人が男女30人で、諏訪神社の神主さんのお宅に宿を取ったという記録が残っています。

そして、4月13日にこのイギリス船であるパーティーが開かれます。これには、青森町に滞在していた、弘前の殿様である承昭つぐあきらと黒石の殿様の承叙つぐみちのほか、新政府軍側のリーダーである総督清水谷公考しみずだにきんなるが招待され、「異国ノ料理」でもてなされてきたようです。「異国ノ料理」とはどんな料理だったのでしょうか、とても気になるのですが、残念ながらメニューは残っていません。

また、この船からは大砲が、もちろん空砲ではありますが20発ほど祝砲として放たれ、これに応じて上浜町から安方町にかけての海岸でも大砲がこれまた空砲で5、6発放たれました。こうした砲声は、青森市中にも響いたそうです。戦争中のことですから、町の人々はきっと大いに驚いたことでしょう。

ところで、このパーティーの目的は何だったか想像できますか?

ヒントは、当時の日本の暦、太陰暦で明治2年4月13日は、太陽暦の1869年5月24日です。さて、どうでしょうか…?

答えは、当時のイギリス国王であるヴィクトリア女王の誕生会です。彼女は、イギリスの繁栄を築いた女王として知られていますよね。そう、何年か前にエミリー・ブランドが主演で『ヴィクトリア女王 世紀の愛』なんていう映画も作られています。ともかく、青森の海上で、イギリス国王の誕生会が催されていたのですよ。

箱館戦争の最中ではありますが、当時の青森町には、蒸気船がやってきたり、このようにして外国人がやってきたりすることで、これまで知らなかった文化と触れる機会がありました。そして、青森町の人々はもちろん、遠くは現在の平川市の方からも「珍し物見たさ」で青森町までやってきたという記録が残っています。

四月十三日  
去ル八日当処へ入津仕候イギリス商船より惣督清水谷様、御殿殿様、黒石様、右御三方様招題ニ而朝より御船ニ御出被遊、異船ニは種々異国ノ料理ニ而御饗応御座候由、八ツ時頃夫々御三方様共御帰リニ御座候  
尤今朝惣督様御始右船へ御出被遊候処異船ニ而大砲ヲ玉込メ不申二十発余リ相放シ候、陸ニは上浜町より安方町入口ノ海辺へ大砲五六挺相懸ケ候而是も異船より相発シ候哉、請ノ空砲二十発余相発シ候、市中へも折節入風ノ処より相応ニ相響キ候  
今日惣督様御始御招題申上候義はイギリスニ而国王出生ノ日ノ由、異船ニ而右ノ祝ニ右御三方様へ御招キ御饗応申上候由ニ御座候

明治2年4月13日のパーティーの記録  
(『青森市史』第七巻より)